



長崎大学長 **齋藤 寛**
Saito Hiroshi

追伸：
学長メッセージ(<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>)にも
アクセスしてご意見をください。
[メールアドレス]president@ml.nagasaki-u.ac.jp
必ずお返事します。

学長 コラム

学びやすい環境づくりが
始まっています

さる平成二十年三月十九日、「長崎大学学位記授与式」を執り行いました。「学位記授与式」はいわゆる「卒業式」とは違います。

普通にいう「卒業式」は正式には「卒業証書・学位記授与式」といい、学部卒業生および大学院修士課程修了生に卒業証書と学位記(学士、修士)を授与するものです。女子学生が振袖姿で卒業証書を受けとる光景や、会場前で卒業生が胸上げされている姿がよく放映されますからおなじみでしょう。

最初に述べた「学位記授与式」とは大学院博士課程において勉学と研究に励み、所定の単位を修得し、学位論文の審査に合格した者が「博士」の学位を授与される式典をいいます。

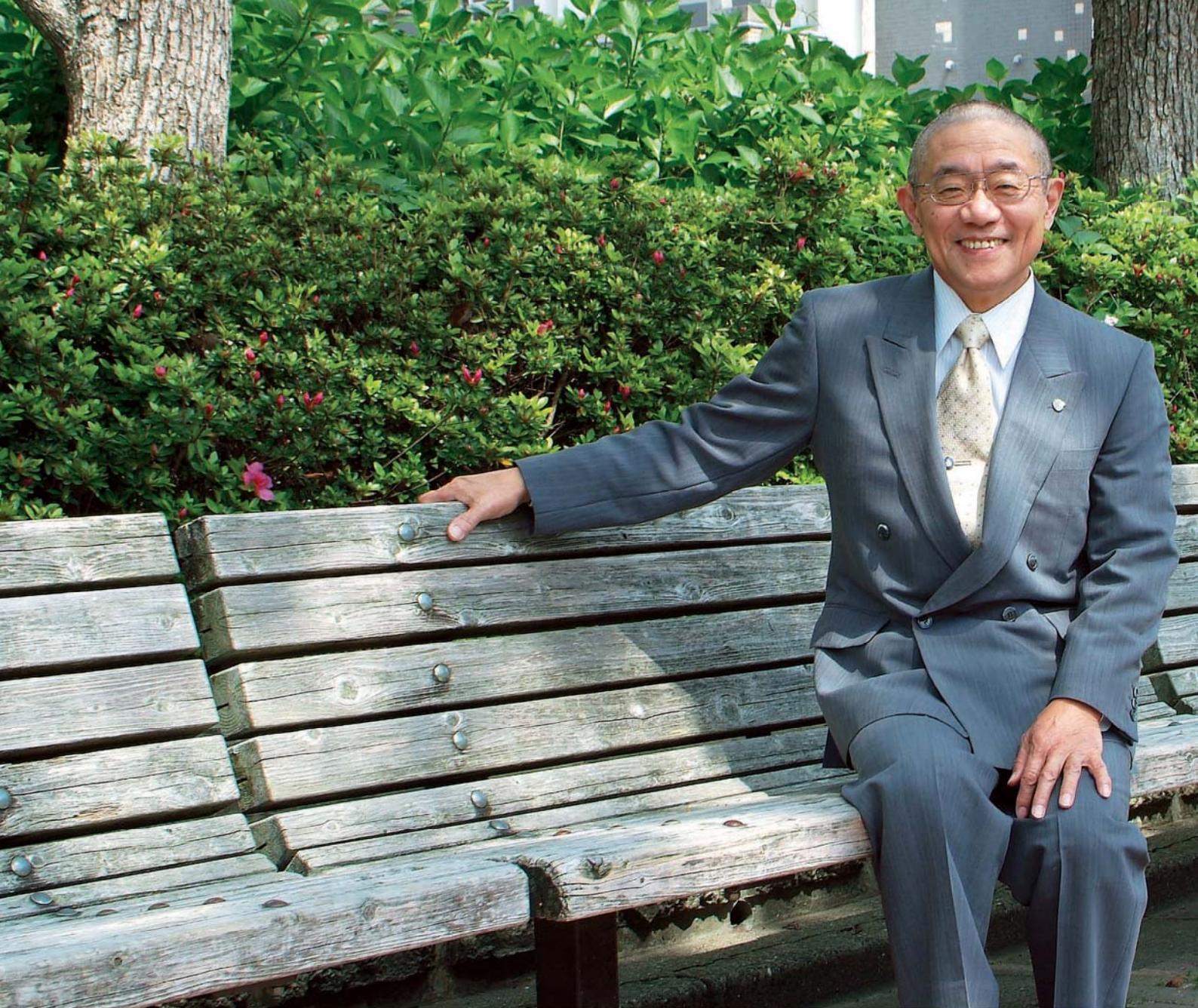
本学では、これまで長い間、「学位記授与式」は大学事務局三階の会議室で行われてきましたが、大学のもっとも大切な行事にふさわしい会場設営、雰囲気とはいえず、正直言ってお粗末でした。

三年前、三宅保信事務局長(現・国立大学協会事務局次

<CONTENTS>

《特集》	
海から広がる世界へ ～未知なる宝庫を探る水産学部～	2
《留学生のキャンパスライフ》	
王 恬婷 さん (台湾)	8
《We Love Circle》	
チアリーディング部 Berries	9
《学内紹介》	
長崎大学生協へようこそ	10
《人クローズアップ》	
経済学部 山口純哉准教授	12
《自然災害を考える》	
長崎の安全と安心 ～豪雨災害～	15
《長大ニュース》	
	18
《古写真に見る 近代ホテルの黎明期(1)》	
雲仙温泉 下田ホテル	20
《インフォメーション》	
	21
《編集後記》	
	21

◎本紙記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌CHOHO〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。



長)から「学位記授与式の会場と雰囲気は博士課程修了者の名譽のためにも工夫すべきではないか」との提言がありました。私もまったく同感でした。

まず、式場を中部講堂に移すことにしました。そして、指導教員はもとより、家族、後輩の参加を呼びかけました。これを喜び母国から両親が駆けつけてくれる留学生も出てきました。今回の式典はモーツアルト・アイネクライネナハトムジークの弦楽四重奏から始まりました。

ところで、中部講堂での式典にはもうひとつの理由があります。

実は三年前の大学院博士課程入学者に身体障害者の方が一名おられ、普段、車椅子の生活でした。その院生を指導する後藤恵之輔教授が「大学事務局二階の学長室へは車椅子が行けません。先生の主義は学生顧客主義でしょう？院生はみな学長と話したいのです。何とかしてください」といいました。私は一言もありませんでした。

バリアフリー化は本学の大きな課題であり、改善の努力をしていますが、事務局は当分の間は無理でした。そこで、大学バリアフリー化の一端として「学位記授与式」を中部講堂で行うことを決めたのです。

昨年七月、放送大学長崎学習センターと本学図書館の合築が竣工し、図書館がバリアフリーとなりました。この三月末には教育学部、工学部、水産学部の改修工事が完了し、さらに環境が改善されます。

三年前に入学し、恵まれない環境にありながら、勉学に励み、めでたく博士(工学)の学位記を得られたのが森 正さんなのです。

学長告辞において、私は森 正博士に学内環境の整備の遅れをお詫びし、またそのような環境のなかで努力され本日を迎えられた博士の姿に、長崎大学教職員学生のすべてが感銘を受けていることを述べ、学ぶ意欲のある人は誰でも学ぶことのできる学園環境づくりにこれからも努力することを約束しました。